

琵琶湖定点定期観測

大山 明彦・大前 信輔・太田 滋規・岡村 貴司・竹上 健太郎

1. 研究目的

琵琶湖の漁場環境の動向を把握するため、大正4年(1915年)から水象と水質の定期観測を実施している。

2. 研究方法

平成22年(2010年)4月から同23年(2011年)3月までの毎月1回、彦根港と安曇川河口の舟木崎を結んだ直線上に設けた5定点(Stn. I～V、図1参照)で、水温、透明度、プランクトン沈殿量、溶存酸素(DO)濃度、栄養塩濃度等の測定を行った。なお詳細については、資料編を参照のこと。

3. 研究結果

水温は、5定点の表層(水深0.5m)の平均値およびStn. IVの底層(同75m)を見ると、観測値が平年値(1971年～2000年の平均値)を上回ることが多く、特にStn. IV底層では2,3月以外観測値が平年値を0.2～0.9℃上回り、7.2～8.3℃の範囲にあった(図2)。

透明度は、5定点の平均値を見ると5.7～8.5mの範囲にあり、1月を除いて平年値(同)を0.7～2.7m上回った。

また、プランクトン沈殿量は5定点の表層(0～10m)平均値を見ると1.86～29.98ml/m³の範囲にあり、4,5月と翌年3月以外平年値を下回った。平年値では6月にピークが見られるが本年は4月にピークが見られ、4月には平年値を23.69ml/m³上回ったが6月には8.55ml/m³と平年値を18.87ml/m³下回った。

DO濃度は、Stn. IV底層(水深約80m)では5.07～10.95mg/lの範囲にあり、4月から9月まで観測値が平年値(2000年～2009年の平均値。1月～3月は2001年～2010年の平均値)を0.50～0.76mg/l下回った。10月以降は平

年並みもしくは平年値を0.49～3.59mg/l上回った。

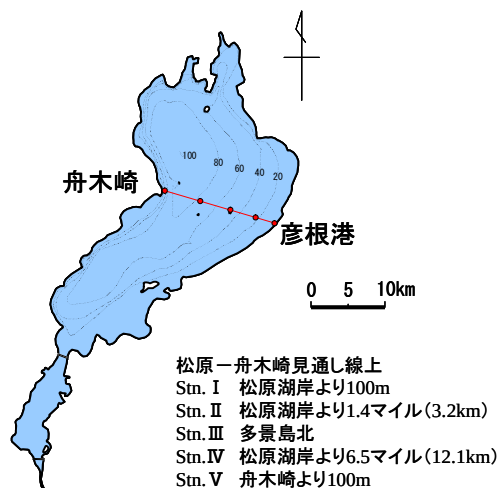


図1 調査地点

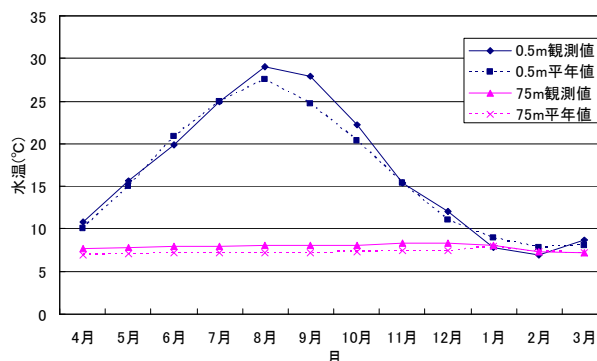


図2 5定点表層(0.5m)とStn. IV底層(75m)における水温の観測値および平年値の経月変化

4. 研究成果

水温、水産試験場地先の湖岸水温、透明度、プランクトン沈殿量、表層におけるプランクトン優占種、DO濃度については、毎月の調査結果を、速報として水試ホームページに掲載して情報を提供している。